

教育関連記事

エデュサン
edusun

5

2026 / No.127



5月9日に開催されたジャパンパレードで。
パレード、パフォーマンス、日本文化紹介にと総勢180人が参加した
(写真提供：ニューヨーク育英学園)

1. 教育レポート

- ◆ 「大盛り上がり」 ジャパンパレードに参加
NY 育英学園
- ◆ 「アメリカで体験する日本の運動会」
NY 育英学園サタデースクール NJ 校

2. NY 教育関連ニュース

- ◆ 学費は私立の 3 分の 1、全米トップ 100 に入る「超コスパ」州立大学が NY にあった
- ◆ NY 市で「障害児支援」に格差、白人生徒の受給率が 70% 超える
- ◆ NY ブロンクスに、全米初の”ヒップホップ専門”公立高校が開校 | ユニークな授業に注目
- ◆ 「大学は出たけれど…」アメリカの新卒就職に逆風、高卒や短大学卒はさらに困難に
- ◆ 裏口入学、偽装結婚、1 億ドル遺産…エプスタイン”元恋人”を巡る衝撃の実態



エデュサン
edu sun

1. 教育レポート

EDUCATION REPORT

「大盛り上がり」 ジャパンパレードに参加

NY 育英学園

2026.5.9

ニューヨーク育英学園は5月9日、ジャパンパレードに参加した。学園が参加するのは、昨年度に続き2回目。

今年は、ジャパニーズ・チルドレンズ・ソサエティーとフレンズアカデミーが合同で、0歳から中学生までの児童生徒とその家族、約180人が参加した。さらに、ジャパンパレード事務局から日米両国の国旗を持つ役割に選ばれた他、学園として初めてベンダーブースも出店し、昨年以上に盛り上がるイベントとなった。

当日はあいにくの雨模様だったが、子どもたちは沿道の観客に笑顔で手を振りながら、セントラルパークウエストの81丁目から68丁目までの約1.6キロメートルを元気に歩いた。普段は車が行き交うマンハッタンの大通りを歩くという、貴重な経験となった。

ゴール付近のレッドカーペットに設けられたステージでは、ニューヨーク育英学園からダブルダッチチームとダンスクラブの2団体が出演し、日頃の練習の成果を披露した。本番に向けて気合十分の子どもたちは、おそろいの衣装に身を包み、直前まで熱心に練習を重ねていた。

ベンダーブースでは、「日本の昔遊び」をテーマに、折り紙・こま・お手玉などの日本文化を来場者に紹介した。子どもから大人まで幅広い世代の人々ににぎわい、予定時間より早く終了するほどの盛況ぶりだった。

参加した子どもたちからは、「雨だったけれど、とても楽しかった。来年も参加したい」「マンハッタンの道路の真ん中を歩いたのは初めて。気持ち良かった」といった感想が聞かれた。子どもたちが日本文化を発信しながら、多くの人々と交流する大変貴重な機会となった。(情報・写真提供：ニューヨーク育英学園)



当日は、総勢180人が参加した

「アメリカで体験する日本の運動会」

NY 育英学園サタデースクール NJ 校

2026. 5. 16

ニューヨーク育英学園サタデースクール・ニュージャージー校は5月16日、小学部・中学部合同の運動会を開催した。例年は育英学園インターナショナルスクールと合同で実施しているが、今年は単独での開催となった。

今回は初の試みとして「騎馬リレー」や「中学生対保護者の綱引き」なども行い、児童生徒、保護者・教員が一体となり、笑顔あふれる一日となった。

5月の風が吹き渡る爽やかな晴天の下、子どもたちによる日米両国歌の斉唱やラジオ体操など、日本の運動会さながらの開会式でスタート。かけっこや綱引き、玉入れなどの競技に全力で挑戦した。赤組・白組ともに得点を重ね、応援にも熱が入り、一步も譲らない接戦を繰り広げた。

クライマックスとなった最後のリレーでは、全員がバトンをつなぎ、最後まで諦めない白熱のレースを展開。結果は白組の優勝となり、大きな歓声の中、運動会の幕を閉じた。

サタデースクール・ニュージャージー校は週に1度、土曜のみの登校のため、練習時間は限られているが、子どもたちは、リレーのバトンパスや綱引きのかけ声などの準備を重ねてきた。本番では、その努力の成果が随所に表れ、仲間と協力しながら全力で取り組む姿が印象的だった。

ディレクターの半場教諭は、「練習時間は限られていたが、一人一人が準備をしてきた。当日は仲間と声をかけ合いながら全力で取り組む姿が印象的で、子どもたちの成長を強く感じる一日となった。保護者の皆さんにもご参加いただき、学校全体で運動会を作り上げることができたことをうれしく思う」と話した。

保護者からも「親も子どももすごく楽しい一日だった。先生たちのサポートのおかげで、子どもたちの思い出に残る素敵な運動会になった」と感謝の声が寄せられた。

アメリカにいながら本格的な日本の学校行事を体験できるのもニューヨーク育英学園ならではの。今回の運動会は、学園が大切に「体験教育・知識教育・人間教育」の3つの柱が凝縮された機会となった。(情報・写真提供：ニューヨーク育英学園サタデースクール・ニュージャージー校)



優勝旗を受け取る、白組の応援団長



エデュサン
edu sun

2. NY 教育関連ニュース

NEW YORK EDUCATION NEWS



ビンガムトン大学のキャンパス (photo: Flickr / Jonathan Cohen)

学費は私立の3分の1、全米トップ100に入る「超コスパ」州立大学がNYにあった

2026. 5. 1

ハーバード大学やイェール大学に代表されるアイビーリーグの名門私立大学は、授業料・寮費・生活費を含む年間総費用が約9万ドル（約1350万円、1ドル＝150円で換算）にも上る。しかしニューヨーク州には、授業料はその約8分の1、年間総費用でも約3分の1という破格の学費で、全米トップ100に入る実力を持つ州立大学がある。マンハッタンから車でわずか3時間にあるニューヨーク州立ビンガムトン大学(Binghamton University, State University of New York)だ。

学費は破格の安さ、中身も本物

ニューヨーク州立大学(SUNY)の一つであるビンガムトン大学の年間総費用(授業料・寮費・生活費込み)は、ニューヨーク州内居住者で約3万1000ドル(約465万円)、州外からの学生でも約5万1000ドル(約765万円)。授業料・学費のみに限れば州内居住者は約1万600ドル(約159万円)と、アイビーリーグの約8分の1に抑えられる。

学費が安いからといって、教育の質が低いわけではない。ビンガムトン大学は、知名度はそこまで高くないが、その実力は数字が証明している。USニュース&ワールドレポート2026年版では全米総合73位、公立大学34位にランクイン。コストパフォーマンスでは全米35位、ニューヨーク州の公立大学の中では1位に輝いた。

大学院も充実しており、34のプログラムでUSニュース&ワールドレポートのランキングに掲載されており、システム科学・産業工学は全米31位。地球科学、薬学、数学などもいずれも高い評価を得ている。

就職市場での評価も高く、特に金融・会計・エンジニアリング分野では米北東部トップクラスの人材輩出校として採用担当者から高く評価されている。2024年には、フォーブス誌がアイビーリーグに代わる優秀な人材輩出校として選ぶ「ニューアイビー」20校に、ニューヨーク州から唯一選出された。[続きはウェブへ](#)



公立校では障害児に対する十分な教育が受けられないとして、私立校に転校を希望する保護者も少なくないという。写真はイメージ (photo: Unsplash / Surya Teja)

NY 市で「障害児支援」に格差 白人生徒の受給率が 70% 超える

2026. 5. 14

障害のある児童生徒の私立校授業料を公費で負担する制度を巡り、ニューヨーク市が支出の急増と人種間格差に直面している。独立予算局 (IBO) によると、給付金は昨年度 7 億 2300 万ドルを超え 10 年前から 300% 以上増加したが、給付金を受け取っている生徒の圧倒的多数が白人であることがこのほど明らかになった。6 日付のチョークビート (Chalkbeat) が伝えた。

白人の支援受給が圧倒的に突出

給付金は公立校では法的手続きで「十分な教育を受けられないと認められた家庭」が対象だが、昨年度に授業料支援を得た児童生徒の約 71% は白人だった。一方、市内の障害児全体では白人は 12.5% にすぎない。障害児の約 75% を占める黒人・ラテン系は、支援を受けた層の 24% にとどまった。受給家庭は裕福な地域に住む傾向も強い。

経済・情報取得の格差が要因

背景には、制度を知る機会、弁護士費用、専門評価の取得、授業料の立て替え能力などの差がある。一般的には家庭が先に授業料を負担し、後に市へ払い戻しを求めるため、富裕層ほど利用しやすい。低所得家庭向けに学校へ直接支払う形式もあるが、学校側が敗訴リスクを嫌い、受け入れ先は限られる。対象となる子どもの障害はディスレクシア (読字障害) から注意欠陥・多動性障害 (ADHD)、自閉症 (ASD) まで幅広く、ASD の生徒は全体の約 3 分の 1 で、平均的な授業料は 1 人当たり年間 14 万 4000 ドルに上る。

ニューヨーク市は私立校関連の授業料や療育サービスに年間 10 億ドル超を投じており、教育局 (DOE) 予算の約 40 分の 1 に該当する。市当局は、公立校の特別支援プログラムや読み書き指導を拡充すれば、より低コストで対応できると主張する一方、保護者側は、私立校で初めて読めるようになり将来が開けた例も

[続きはウェブへ](#)



ヒップホップを教育に落とし込むニューヨークらしい試みだ (photo: Unsplash / Dmitry Ignatenko)

NY ブロンクスに、全米初の ”ヒップホップ専門” 公立高校が開校 ユニークな授業に注目

2026. 5. 19

ニューヨーク市はブロンクスのクレアモントに9月、全米初となるヒップホップ専門の公立高校、ブロンクス・スクール・オブ・ヒップホップ (Bronx School of Hip-Hop) を開校する。市が過密解消と学習意欲向上を目的に今秋新設する公立5校のうちの1校で、市を挙げての取り組みとして注目を集めている。

全米初のヒップホップ専門高校

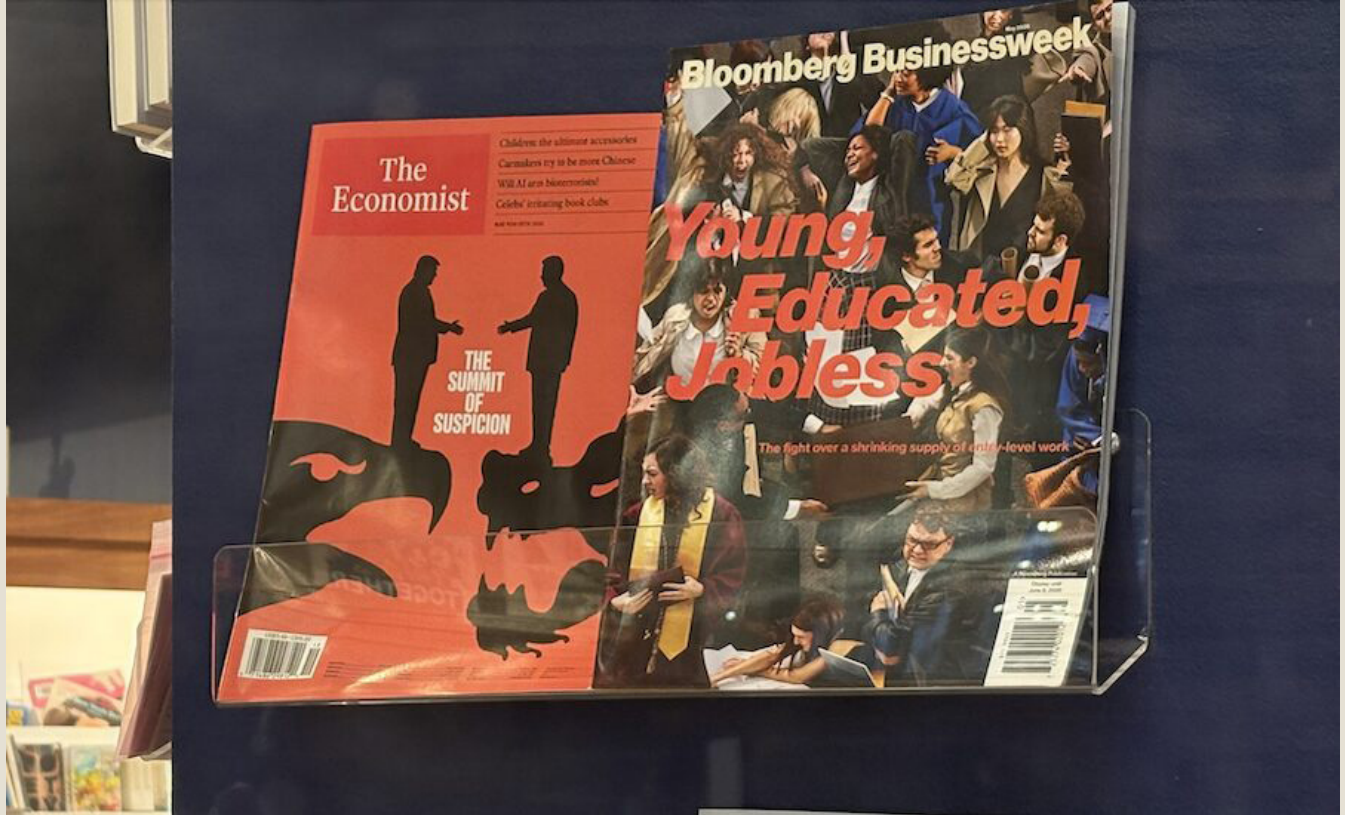
1973年、ブロンクスのセジウィックアベニューで行われたパーティーで、DJクール・ハーク (DJ Kool Herc) がターンテーブルを回し、ヒップホップの世界的ムーブメントに火を付けた。それから半世紀。ヒップホップの聖地に、ヒップホップを正式な学問として学ぶ高校が誕生する。

ユニークな授業形式

校長に就任予定のジェイソン・レイエス (Jason Reyes) さんと市教育局 (DOE) が打ち出したカリキュラムは、従来の授業形式を大きく刷新。例えば国語の授業では、ケンドリック・ラマー (Kendrick Lamar) のアルバム「To Pimp a Butterfly」の歌詞を「ライ麦畑でつかまえて」などの名作と比較しながら表現技法を学ぶ。数学ではビートのパターン認識を使った代数方程式の授業が行われる予定だ。

学びはヒップホップの歴史にとどまらない。オーディオエンジニアリング、デジタルメディア、グラフィックデザイン、金融リテラシーなど、実践的なスキルと業界認定資格の取得を目指す授業もある。さらにレマンカレッジやブロンクス・コミュニティー・カレッジとの連携により、在学中に大学単位を取得することも可能だ。

[続きはウェブへ](#)



巨匠、小津安二郎監督の映画「大学は出たけれど」と同じ現象が。写真はイメージ (photo: 本紙)

「大学は出たけれど…」アメリカの新卒就職に逆風 高卒や短大学卒はさらに困難に

2026. 5. 27

2026年春に卒業するアメリカの大学生たちは、近年でも特に厳しい就職市場に直面している。企業が採用を大幅に絞り込む中、ようやく内定を得ても希望する職種ではないケースが増えている。ウォール・ストリート・ジャーナルが22日、伝えた。

さらに、学生の間にはAIの普及によって「大学で学んだスキルが将来不要になるのではないか」との不安も広がっており、卒業式の祝辞でAIを称賛する発言に学生から冷ややかな反応が出る場面もあるという。ニューヨーク連銀によると、22～27歳の学士号取得者の失業率は今年3月時点で5.6%となり、コロナ前の2019年末の3.6%から大きく上昇した。

仕事探しを諦める高卒・短大卒

状況が最も厳しいのは大学を卒業していない若者たちだ。専門家は、失業率だけでは実態を十分に表せないと指摘。高卒や短大卒層では、そもそも仕事探しを諦める人が増えているため、失業率に反映されにくい。実際、労働参加率は2019年の77.1%から75.9%へ低下した一方、大卒者は85.7%から86.7%へ上昇した。就業率でも、大卒者は82.4%とほぼ横ばいを維持したが、高卒～短大卒層は70.5%まで下がっている。つまり、大卒者も苦戦しているものの、学位を持たない若者はさらに厳しい状況に置かれているということだ。

大学の価値変化と景気減速、AIの浸透も

背景には景気減速やAIの浸透だけでなく、「大卒の価値」の変化もある。アメリカでは学士号以上を持つ労働者が増え続け、全就業者に占める割合は10年前の約36%から現在は約42%へ上昇した。

[続きはウェブへ](#)



Epstein's 'Secret' Girlfriend Hidden in DOJ Files



Law & Crime Network ©
7.57M subscribers

Try it free

Subscribe

👍 24K



🔗 Share

👤 Ask

🔖 Save

⬇️ Download

エプスタイン（右）が拘留所から生前最後の電話をしたという、カーリーナ・シュリアクさん。不正入学や偽装結婚はエプスタイン文書で判明 (photo: Law & Crime Network の YouTube チャンネル <https://www.youtube.com/watch?v=Oz6Pqmc3g00> からスクリーンショット)

裏口入学、偽装結婚、1億ドル遺産… エプスタイン”元恋人”を巡る衝撃の実態

2026. 5. 29

コロンビア大学歯学部は、性犯罪で有罪とされ2019年、拘留所で自殺した富豪ジェフリー・エプスタインの最後の交際相手であるカーリーナ・シュリアクさんが、23年に上級研修医プログラム（ニューヨーク州歯科医師免許を取得するために必要）へ入学するのを不適切に支援したとして、シニア管理職のジェームズ・ファイン博士を降格処分にしたと発表した。複数のメディアが28日、伝えた。

コロンビア大歯学部で裏口入学

シュリアクさんは12年にも、エプスタインによる多額の寄付と引き換えに同大学歯学部で不正に入学している。不正入学に関して、大学は関与した大学幹部を追放、解任、降格処分にし、計21万ドルの寄付金を全て没収。ニューヨーク市内の「性暴力および人身売買の被害者を支援する2つのNPO団体」へ全額を寄付（譲渡）した。今回の降格処分は、シュリアクさんが上級研修医プログラムに入学する際、ファイン博士が「自身の診療所で変則的なインターンシップをさせて実績を偽装し、最高評価の推薦状を書く」という職権乱用を行ったことが直接の理由だ。

問われる名門大の倫理観

エプスタイン文書の公開により、コロンビア大学だけでなく、ハーバード大学、マサチューセッツ工科大学（MIT）、イェール大学など、アメリカのトップクラスの複数の名門校が、エプスタインから多額の寄付金を受け取り、引き換えに特別な便宜を図っていた事実が次々と明るみに出ている。この問題は下院司法委員会から追及も受けており、大学側は「大口寄付者や権力者による不当な介入」を完全に排除するため、外部の監査を入れた入学審査の透明化を迫られている。

[続きはウェブへ](#)

supported by



edu sun